

嫉妬時の敵意対象の選択 — 三者関係における検討 —

小山 愛未・本多ハワード 素子

Target Selection for Hostility in Triadic Relationships Under Jealousy Conditions

Aimi KOYAMA and Motoko HONDA-HOWARD

This study investigated jealousy within triadic relationships, focusing on hostility as a coping strategy and its relationship with the target of hostility. Utilizing a scenario method, we analyzed data from 101 participants to examine the interplay between jealousy, relationship commitment, and narcissism, the latter being a personal trait influencing hostility. Our findings revealed a positive correlation between relationship investment and commitment and jealousy and hostility. However, the relationship between commitment and jealousy was not as clear. General Linear Model analysis indicated that jealousy leads to hostility directed at partners and rivals. Notably, in scenarios involving friendship, individuals with higher levels of narcissistic hypersensitivity showed a tendency to exhibit more hostility towards their best friend or partner than their rival, highlighting the nuanced dynamics of jealousy and hostility in different relational contexts.

Key words : *jealousy* (嫉妬), *triadic relation* (三者関係), *hostility* (敵意), *narcissism* (自己愛)
scenario method (シナリオ法)

1. 問題と目的

本研究では、恋愛および友人との対人関係における裏切り行為から生じる嫉妬について、嫉妬する本人、嫉妬されるパートナー、嫉妬されるライバルの三者関係においてとらえ、嫉妬の対処方略としての敵意、および、敵意の向かう対象との関連について、シナリオ法を用いて検討した。嫉妬を生じさせる関係性へのコミットメントと、対処方略に影響する個人特性である自己愛との関連性についても検討した。嫉妬で敵意を抱きやすい人を深く理解することを研究の問題として検討した。

嫉妬の定義

嫉妬は、「すでに所有していて、価値づけている対人関係が失われる危険を感じたときに生じる」(Parrot, 1991)、「怒り、不安、悲しみ等、裏切りによる苦痛を含んだ感情を伴う」である。恋愛関

係においては「パートナーがライバルに奪われそうになった際に起き」、価値ある関係喪失への恐怖と、ライバルと自分の比較による自己評価への脅威と恐怖を原因としたストレス状況の一つとみなされる(White, 1981; 神野, 2015)。愛情と関連する肯定的な面もあるが(Guerrero & Andersen, 1998a)、ストーカー行為や暴力などの否定的結果をもたらすこともある(Buss, 2000; Guerrero & Andersen, 1998a)。

類似した「羨望」「妬み」は「他人のすぐれた点をうらやむこと」で、「自分の愛する者の愛情が他に向くのをうらみ憎む」嫉妬とは区別される(神野, 2015)。嫉妬が自分の既得権を奪われることへの危機感や恐怖の認識に焦点化されるのに対して、羨望・妬みは、他者の優位性との比較が焦点化される点で異なる。羨望や妬みは、妬みを感じる自分と、望む対象を所有するライバルの二者関係に生じるが、嫉妬はそれを感じる自分、価値

ある存在であるパートナー、それを奪おうとするライバルの「三者関係」にある (Guerrero & Andersen, 1998b 一言訳 2008)。

嫉妬に特徴的な感情には、①パートナーやライバルに対する“怒り”、②関係の崩壊や変化の可能性に対する“恐怖・不安”、③実際の関係喪失あるいはその可能性に対する“悲しみ・悲嘆”、④裏切られたことによる“苦痛”、⑤パートナーに対する“愛・感謝・誇り”等の肯定的感情、の5つがあり、主な感情は怒りで、喪失の恐れや疑惑、憎悪がある (Guerrero & Andersen, 1998b 一言訳 2008)。一方、羨望に特徴的なのは、切望、劣等感、不満である (中里, 1992)。

嫉妬に含まれる恐怖や不安には自己評価への脅威があり、自分とライバルの社会的比較 (Festinger, 1954) が関連する。妬みや羨望は二者間の比較から「社会的比較における嫉妬 (social-comparison jealousy)」とされ、嫉妬は第三者を含めて「社会的関係における嫉妬 (social-relation jealousy)」とは区別される (Bers & Robin, 1984; Salovey & Rothman, 1991; 神野, 2015; Gilbert, Price, & Allan, 1995; 大久保, 2009)。

コミットメントと投資モデル

嫉妬は、相手とのそれまでの関係を価値づけて関係維持に向かうことで生じる (Guerrero et al., 1995)。投資モデルにおける関係維持、すなわちコミットメントの概念 (Rusbult, 1980) は「満足度 (Satisfaction) + 投資量 (Investment) - 代替の質 (Alternative Relationships)」であり、関係への満足、時間や努力等の資源投資、他に望ましい代替選択肢が少なければコミットメントは強くなる。投資モデルは、結婚や恋愛、異性関係や同性関係等の多様な検討が試みられ (相澤, 2003)、関係の経済性に注目するために投資量が重視される (Rusbult, 1980; Rusbult, 1983; 相澤, 2003; 古村, 2017)。

嫉妬と対処方略としての敵意、その対象

嫉妬の対処方略には別れの選択や関係修復等の複数がある (Feldman & Cauffman, 1999; Guerrero et al., 1995; Guerrero & Andersen, 1998b 一言訳 2008)。嫉妬状況に適用されるEVLNモデル (Rusbult, 1987) は、対人葛藤への対処行動をExit

(相手を責めて関係を離れる積極的・破壊的な行動)、Voice (パートナーとの対話や修復を試行する積極的・建設的な行動)、Loyalty (事態の沈静化を待つ消極的・建設的な行動)、Neglect (対話を拒否する、消極的・破壊的な行動) としている (神野, 2017)。

恋愛関係・夫婦関係の「現在のパートナーとの間で嫉妬した際、過去に自分が取った行動的反応」の回答集積に基づくCRJ (Communicative Responses to Jealousy) は嫉妬の対処方略の52項目「沈黙」「暴力的な行動」等の全11下位尺度から構成される (Guerrero et al., 1995; Guerrero et al., 2011; 神野, 2015)。このうち複数に、嫉妬のライバルという第三者の存在と (神野, 2017)、パートナーやライバルを傷つけたいという攻撃性が含まれる。

攻撃性に含まれる敵意は、Aggression Questionnaire (Buss & Perry, 1992; 安藤他, 1999) の4つの下位尺度、短気、敵意、身体的攻撃、言語的攻撃のひとつである。攻撃性には情動的、認知的、道具的の3側面があり、敵意は、認知的側面に該当する (安藤他, 1999)。攻撃性として本研究で敵意を取り上げるのは、嫉妬する者が自覚し、関係性に影響する方略で、社会的望ましさのバイアスが小さく、侵襲性が低いという理由からである。

攻撃性の対象は、次の4つの理由から、ライバルよりもパートナーに向かいやすい (Daly & Wilson, 1983)。すなわち、①嫉妬する者がパートナーの近くにいる、②パートナーこそが約束を破り、背信行為を働いた者と認知される、③ライバルは、パートナーの他の関係を知らず、自分が人を傷つけていることに気づいていない可能性がある、④嫉妬する者はパートナーの魅力に惹かれており、同じ魅力に惹かれたライバルを責めることが難しい (Paul et al., 1993)。また、ライバルとの関係も影響し、関係が遠ければ攻撃性はパートナーに向き、身近であればパートナーとライバルの両者に向きやすい (Parker, 1994; Daly & Wilson, 1983; Guerrero & Andersen, 1998b 一言訳 2008)。そこで、本研究ではライバルを友人と設定して関係の近さのバランスをとり、嫉妬時の敵意の方向性を検証し、Paul et al. (1993) の指摘から、敵意はパートナーに向くと予測した。

敵意対象の選択と自己愛の関連性

敵意の対象の選択には状況以外の個人特性も影響すると考え、本研究では、自己愛について検討する。自己愛は自分自身を愛し、大切に思うことで(相良・相良, 2006)、誰にも認められる心性であるとともに、人が生きていくために必要である(Fromm, 1956)。自己愛は「誇大性 (hypervigilant type)」と「過敏性 (oblivious type)」の2種類に分類される(中山・中谷, 2006)。「誇大性」は、他者に頼らず、自己価値、自己評価を肯定的に維持する機能があり、「過敏性」は、他者によって低められるような証拠がないことを確認することで、自己価値や自己評価を肯定的に維持する機能に関連する(中山・中谷, 2006)。自己愛の誇大性と過敏性を比べれば、後者が嫉妬に関わる。過敏性の脆く不安定な傾向が嫉妬を強くするからである(神野, 2018)。一方で自身の評価と重要性に関わる誇大性は嫉妬の抵抗力になる(岸田, 1987; 堤, 2006)。自己愛傾向は、身体的暴力、言語的攻撃、間接的攻撃(知ったかぶりをする人に、わざと色々なことを聞いて困らせる等)の攻撃性の正に相関するが、中でも、自己愛過敏性が間接的な攻撃と関連して身体的暴力との関連がないことも示されている(小塩, 2004; 相良・相良, 2006)。

嫉妬の三者関係では、自己愛過敏性が高ければ、まず、理想から外れたパートナーに敵意が向かうと考えられる。自己愛の強さによる関係性への同一視により、嫉妬状況を自分とパートナーの問題とみなし、パートナーに敵意が向かう可能性が高いからである。一方で、パートナーを自己の延長とみなすことで、同一視した関係に割り込んだライバルを問題視して敵意を向け、自分自身を守りながらライバルに敵意を向ける可能性もある。

2. 仮説

これらの知見に基づき、以下の7つの仮説を立てた。すなわち、嫉妬は、コミットメントのある関係において生じ、嫉妬に続いて、対処行動である攻撃性、ここでは敵意が生じると考えられる。敵意は主にパートナーに向くと指摘されるが(Paul et al., 1993)、三者関係における嫉妬時の敵意についての実証的検討は少ないことから、どちらに敵意が向くかを調べる。また、自己愛過敏性は、

嫉妬と敵意に関連する個人特性として指摘されるが、敵意の対象選択との関連性の検討はみあたらない。そこで、以下の仮説を立てて検討する。

仮説1 コミットメントと嫉妬には正の相関がある。

仮説2-1 嫉妬と敵意には正の相関がある。

仮説2-2 敵意は、ライバルよりもパートナーに向く。

仮説3-1 自己愛過敏性は嫉妬に正に影響する。

仮説3-2 自己愛過敏性は敵意に正に影響する。

仮説4-1 自己愛過敏性はパートナーへの敵意に正に影響する。

仮説4-2 自己愛過敏性はライバルへの敵意に正に影響する。

最後に、嫉妬と敵意、自己愛の関連性を恋愛関係と友人関係で比べて探索的に検討する。

3. 予備研究

3-1. 方法および参加者

シナリオの妥当性(独立変数)と、尺度の有用性(従属変数)の検討を目的とした。参加者は都内女子大学生と大学院生合計34名で(全員女性、 $M = 22.00$ 歳、 $SD = 1.97$ 歳)、シナリオ確認項目に誤解はなく、全員を分析対象とした。

シナリオ

投資(高/低)と関係性(恋愛/友人)の2要因の2×2の4パターンとした。「シナリオの主人公を自分として読むように」と指示した。恋愛シナリオの登場人物は、あなた(主人公)、Aさん(あなたと異性のパートナー)、Bさん(あなたと同性のライバル)の3名、友人シナリオは、あなた(主人公)、Aさん(あなたと同性の友人)、Bさん(あなたと同性の友人・ライバル)とした。シナリオの内容や要素は、和田(2015)の「恋人が他の誰かとデートしている場面を目撃した」という嫉妬喚起場面等を参考に、指導教員と大学院生1人の3名で検討した。

質問項目

投資モデルの尺度項目 投資モデル(Rusbult et al., 1998 以下、IMS)は、コミットメント、満足度、投資量、代替の4下位因子から構成され、「関係がいつまでも続くとよいと思う」などの多次元コミットメント全22項目である。ゼミ指導

教員及び大学院生1名と日本語に翻訳して用いた(7件法)。

嫉妬感情 嫉妬感情尺度(中里, 1992)の嫉妬時に起きる感情状態を表した40項目のうち、嫉妬に関する11項目「怒り」「不快」他に「ひどい」1項目を追加して全12項目とした(7件法)。

敵意 敵意は、架空の浮気場面に対する行動の測定尺度(神野, 2017)の5下位尺度の全22項目より「攻撃志向」下位尺度の「自分が受けた心の痛みをぶつける」など5項目を用いた(7件法)。

自己愛 自己愛性人格尺度短縮版(谷, 2006)より、「有能感・優越感」、「自己主張性・自己中心性」、「注目・賞賛欲求」、「自己愛性抑うつ」、「自己愛的憤怒」の各5項目、「みんなから一目置かれない」などの全25項目を用いた(7件法)。

シナリオ確認 「ストーリーはどのような関係について説明していましたか(恋愛関係/友人関係の2件法)」、「ストーリーの主人公は関係にどれくらい投資していると思いますか(7件法)の2項目を各シナリオの質問項目評定後に尋ねた。

フェイス項目 性別、年齢を尋ね、「答えたくない」の選択肢を設けた。

嫉妬感情と敵意は、パートナーとライバルについてそれぞれ尋ねた。

手続き

Googleフォームを用いたWEB調査形式の実験を2022年4月～5月に実施した。都内女子大学で研究協力依頼書を配布し、SNSでも機縁法により研究協力を依頼して回答を収集した。回答の誕生日により、奇数月に恋愛・投資高群シナリオと友人・投資低群シナリオを、偶数月に、恋愛・投資低群シナリオと友人・投資高群シナリオを提示した。

倫理的配慮

研究にあたり、昭和女子大学倫理審査委員会の承認を得た(承認番号22-17)。研究協力は自由意志で、途中でやめても不利益がないこと、匿名性の厳守と、データの厳重管理および研究後の破棄、研究実施者の問い合わせ先等を明記した。同意を確認して回答を得た。個人的で否定的な経験を想起させる可能性を配慮し、間接的なシナリオ法を選択して研究参加者の負担軽減に努めた。

3-2. 結果と考察

恋愛シナリオの投資高群と投資低群でコミットメントに有意差があった(計算コミットメント投資高群 $M = 4.21$, $SD = 1.28$, 投資低群 $M = 4.87$, $SD = .92$, $t(32) = 3.25$, $p < .01$)。また、嫉妬と敵意の認識の8変数のうち7変数の平均値は中間の4点以上であった。友人シナリオでは、コミットメントに差はなく、嫉妬と敵意の認識も4点未満で、操作が不十分であった。

嫉妬感情尺度の12項目を因子分析し、固有値の減衰状況と因子の解釈可能性から2因子を採用した(主因子法、プロマックス回転)。第1因子は「積極的嫉妬」因子(傷つきたい、敵意、憎しみ)、第2因子は「受動的嫉妬」因子(侮辱、ひどい、不公平)とした。

以上の結果から、シナリオの改変、項目数の削減と、自己愛尺度項目を過敏性・誇大性と適合させて再選定し、敵意の質問項目も補足して、本研究を実施した。

4. 本研究

4-1. 方法

研究参加者

都内女子大学と男女共学の大学院生の合計109名で(男性8名、女性100名、その他1名 $M = 22.99$ 歳、 $SD = 4.39$ 歳)、回答に誤解のあった8名を除き101名を分析対象とした。

実施期間

Googleフォームを用いて2022年7月～10月に実施した。

シナリオ

著者2名と、大学院生1名の協力のもとでシナリオを改良した。予備研究と同様に4パターン、3人(主人公、パートナー、ライバル)を登場人物とし、シナリオの主人公は研究参加者本人とは別として読むよう教示した。本研究で用いたシナリオ(恋愛・投資高群)の一例を示す。太字は投資の要素で()内は投資低群の表現である。下部は友人関係のシナリオにおいて表現が異なる。

『あなたは**大好きなA**(A)と付き合っ**て**そろそろ1年になります。忙しい時もAとの時間を大切にしています。お互いの好きなものをプレゼントしたり、共通の趣味の道具などは、2人でお金を

出しあって買いました（お互いに比較的軽い気持ちで付き合いはじめて、1か月1度くらいは会っています）。意見の違いからケンカをすることもありましたが、お互いのことをよく理解しようと努力し、今の関係を大切にしてきました（お互いに譲り合ってさっと流してきました）。体調を崩したときや辛いときなどは支え合い、嬉しいことや楽しいことを共有しました。お互いそんな関係を心地よく思い、満足した関係を築いてきました。あなたはAとの結婚の可能性も考えていました（お互いそんな関係を心地よく思い、満足した関係を築いてきました）。

そろそろ2人の記念日が近くなりました。最近はお互いに予定が合わず、会えなくて寂しく感じていました（会えないことが多くなりました）。以前から、記念日は一緒に過ごすことをお互いに約束しており、あなたはその日をとて（その日を）楽しみにしていましたが、前日にAから「明日はどうしても外せない用事が入ってしまった。ごめんなさい」と言われ、会えなくなりました。

翌日あなたは、Aにプレゼント（親に誕生日プレゼント）を買おうと外出しました。そこで、AがBと楽しそうに歩き、キスしているところを目撃しました。Bは、あなたの以前からの友人で、あなたとAが恋人であること、当日があなたとAの記念日だと知っています。

この場面を見て、あなたはAとの関係が崩れてしまうかもしれないと思いました。A以外にも魅力的な人はいますが、Aの代わりにはなりません。』

友人シナリオでは、「唯一の親友（友達）と高校で過ごし、卒業後も会おうと約束していたが、約束の日にキャンセルされ、AがBととても楽しそうに食事しているところを目撃した」とした。

質問項目

投資モデル尺度 予備研究と同様の尺度（Rusbult et al., 1998）の4下位因子から因子負荷量の高い（Rusbult et al., 1998）、各3項目、全12項目とした（7件法）。

嫉妬感情 嫉妬感情尺度（中里, 1992）の「積極的嫉妬」、「受動的嫉妬」とした（7件法）。

敵意 怒りの表出方法（木野, 2000）19項目から、「感情的攻撃」5項目、「表情・口調」3項目、「遠回し」2項目、「嫌み」2項目の4因子、全12項目とした（7件法）

自己愛 評価過敏性—誇大性自己愛尺度項目（中山・中谷, 2006）から、「評価過敏性」（以下、過敏性）、「誇大性」を用いた（7件法）。

シナリオ確認 「ストーリーは、どのような関係について説明していましたか」（恋愛関係・友人関係の2件法）、「ストーリーの主人公は、関係にどれくらいつきこんでいると思いますか」（7件法）の2項目とした。各シナリオに対する質問に回答後、評定を求めた。

フェイス項目 性別、年齢、シナリオによる侵襲性確認（「シナリオで不快になったか」「自分の経験を思い出していやな気分になったか」の2項目、はい・ふつう・いいえの3件法）、「恋愛経験の有無」（はい・いいえ・答えたくないの3件法）、「嫉妬とはどんなものか」（自由記述）とした。いずれも「答えたくない」を選択できるようにした。

嫉妬感情と敵意はパートナーとライバルについてそれぞれ尋ねた。質問の具体的な項目例や項目数等を Table 1 と Table 2 にまとめた。

手続き

依頼方法は予備研究と同様とした。誕生月により提示シナリオを分けて、奇数月を投資高群、偶数月を投資低群とした。投資群（高/低）が参加者間要因、関係性（恋愛/友人）を参加者内要因とした。

倫理的配慮

修士論文中間発表会において、たとえ間接的なシナリオ法でも個人的な記憶の想起による侵襲性が高いと指摘を受けてシナリオ内容を再吟味し、「シナリオの主人公の反応に対してどう思うか」を尋ねることで間接性をさらに高めた上で、倫理審査委員会の再承認を得た（承認番号22-26）。予備研究と同様に実施時には研究参加者への配慮を行った。

4-2. 結果

研究の侵襲性について「シナリオを読んで不快になったか」に「はい」の回答が101名中21名、「自分の経験を思い出していやな気分になったか」に「はい」は15名であった。このうち回答の中断はなく、深刻な侵襲性はなかったとして分析を進めた。

Table 1 各変数の信頼性および投資高群と投資低群の差

| 項目 | 項目数 | 恋愛シナリオ | | | | | | | | 友人シナリオ | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------------|--------------------|---------|------|------|------|------|------|---------|---------|----------|------|------|------|------|------|------|--------|-------|------|------|---------|--|--|--|
| | | 投資高群 | | | | 投資低群 | | | | 95%信頼区間 | | | | 投資高群 | | | | 投資低群 | | | | 95%信頼区間 | | | |
| | | α | M | SD | M | SD | t | p | 下限 | 上限 | α | M | SD | M | SD | t | p | 下限 | 上限 | | | | | | |
| 投資量確認項目*1 | 関係にどれくらいつぎ込んでいると思うか | 1 | - | 6.00 | .66 | 4.69 | 1.38 | 6.21 | .000*** | .89 | 1.74 | - | 4.94 | 1.01 | 4.54 | 1.41 | 1.65 | .102 | -.08 | .88 | | | | | |
| IMS*3 | 計算コミットメント*2 | - | - | 5.60 | 2.47 | 2.37 | 2.67 | 6.27 | .000*** | 2.20 | 4.25 | - | 6.43 | 2.58 | 5.20 | 2.90 | 2.24 | .027* | .14 | 2.32 | | | | | |
| | コミットメント | 3 | .76 | 5.67 | 1.02 | 4.27 | 1.32 | 5.91 | .000*** | .93 | 1.87 | .67 | 5.40 | 1.17 | 4.92 | 1.23 | 1.99 | .050* | .00 | .95 | | | | | |
| | 満足度 | 3 | .86 | 4.92 | 1.43 | 3.81 | 1.48 | 3.84 | .000*** | .54 | 1.69 | .79 | 5.33 | 1.29 | 5.02 | 1.12 | 1.26 | .211 | -.17 | .78 | | | | | |
| | 投資量 | 3 | .62 | 4.77 | .90 | 3.09 | 1.08 | 8.41 | .000*** | 1.28 | 2.07 | .64 | 4.96 | 1.09 | 4.27 | 1.30 | 2.84 | .005** | .21 | 1.16 | | | | | |
| 嫉妬*5 | 代替 | 3 | .85 | 4.09 | 1.42 | 4.53 | 1.36 | 1.59 | .116 | -.99 | .11 | .82 | 3.85 | 1.14 | 4.10 | 1.45 | .93 | .354 | -.76 | .28 | | | | | |
| | パートナー | 積極的嫉妬 | 怒り | 6 | .86 | 5.25 | 1.04 | 4.86 | 1.32 | 1.63 | .106 | -.08 | .86 | .89 | 3.33 | 1.24 | 3.54 | 1.45 | .79 | .431 | -.75 | .32 | | | |
| | 受動的嫉妬 | 不快 | 6 | .71 | 5.91 | .76 | 5.79 | .87 | .77 | .446 | -.20 | .45 | .86 | 4.54 | 1.44 | 4.64 | 1.40 | -.35 | .726 | -.66 | .46 | | | | |
| | ライバル | 積極的嫉妬 | 怒り | 6 | .88 | 5.66 | 1.16 | 5.38 | 1.27 | 1.15 | .252 | -.20 | .76 | .92 | 3.54 | 1.61 | 3.48 | 1.64 | .17 | .868 | -.59 | .70 | | | |
| 嫉妬*5 | 受動的嫉妬 | 不快 | 6 | .79 | 5.78 | 1.07 | 5.81 | .95 | .14 | .890 | -.43 | .37 | .91 | 4.16 | 1.59 | 4.10 | 1.71 | .18 | .854 | -.59 | .72 | | | | |
| | パートナー | 感情的攻撃 | 非を責め立てる | 5 | .80 | 5.89 | 1.07 | 5.49 | 1.02 | 1.93 | .057† | -.01 | .81 | .91 | 3.59 | 1.50 | 3.66 | 1.69 | .21 | .832 | -.70 | .57 | | | |
| | 表情・口調 | 表情で怒りを示す | 3 | .83 | 6.06 | 1.02 | 5.56 | 1.42 | 2.01 | .047* | .01 | 1.00 | .93 | 4.46 | 1.80 | 3.78 | 1.97 | 1.81 | .074† | -.07 | 1.43 | | | | |
| | 嫌み | 嫌みを言う | 2 | .92 | 5.19 | 1.73 | 4.64 | 1.80 | 1.57 | .120 | -.15 | 1.25 | .95 | 3.57 | 1.89 | 3.47 | 2.13 | .25 | .800 | -.70 | .90 | | | | |
| 敵意*6 | 遠回し | 自分が怒っていることを冗談っぽく言う | 2 | .82 | 3.56 | 2.00 | 3.64 | 1.82 | .20 | .844 | -.83 | .68 | .82 | 4.80 | 1.99 | 4.51 | 1.84 | .76 | .450 | -.47 | 1.04 | | | | |
| | パートナー | 感情的攻撃 | 非を責め立てる | 5 | .91 | 5.84 | 1.33 | 4.97 | 1.57 | 2.98 | .004** | .29 | 1.45 | .95 | 3.37 | 1.71 | 3.00 | 1.78 | 1.06 | .290 | -.32 | 1.06 | | | |
| | 表情・口調 | 表情で怒りを示す | 3 | .84 | 5.82 | 1.27 | 5.31 | 1.56 | 1.78 | .079† | -.06 | 1.08 | .93 | 3.99 | 1.87 | 3.43 | 2.06 | 1.44 | .153 | -.22 | 1.35 | | | | |
| | 嫌み | 嫌みを言う | 2 | .94 | 5.17 | 1.86 | 4.66 | 2.16 | 1.27 | .207 | -.29 | 1.31 | .94 | 3.77 | 1.87 | 3.38 | 2.11 | .97 | .335 | -.41 | 1.18 | | | | |
| 敵意*6 | 遠回し | 自分が怒っていることを冗談っぽく言う | 2 | .84 | 3.47 | 2.09 | 3.70 | 2.02 | .58 | .566 | -1.05 | .58 | .84 | 4.09 | 1.98 | 3.70 | 1.89 | .99 | .324 | -.38 | 1.14 | | | | |

投資高群 N = 47. 投資低群 N = 54.

*1 df=78.10

*2 教示文：投資量確認項目～投資量について「Aとの関係についてお伺いします」、代替は「A以外との関係についてお聞きします」

*3 計算コミットメント = (満足度 + 投資量) - 代替

*4 友人シナリオでは、「A以外の人と親友であることにとても魅力を感じる」

*5 教示文：「主人公がA (B) に対して感じたと思う、気持ちの強さをお答えください」

*6 教示文：「主人公が次のような行動をとったとしたら、あなたはどう思いますか」

**p<.001. *p<.01. †p<.05. †p<.10.

Table 2 自己愛評定項目例と信頼性係数および記述統計量

| 尺度 | 下位因子 | 項目例 | 項目数 | α | Mean | SD |
|-----|------|----------------------------|-----|----------|------|------|
| 自己愛 | 過敏性 | 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂鬱な気分が続く | 8 | .88 | 4.24 | 1.33 |
| | 誇大性 | 自分にはどこか、他の人をひきつけるところがあるようだ | 10 | .91 | 3.46 | 1.35 |

N = 101

投資の高低による差の検討

シナリオによる投資量およびコミットメントの値の相違を検討した (Table 1)。恋愛シナリオでは投資量の確認項目について投資の高群の値が高く ($t(101) = 6.21, p < .001$)、IMSの「代替」以外の得点も、高群の値が高くなった。友人シナリオは、投資量の確認項目では差はないが、IMSの「満足度」と「代替」以外の得点で高群の値が高くなった (計算コミットメント $t(101) = 2.24, p < .05$; コミットメント $t(101) = 1.99, p < .05$; 投資量 $t(101) = 2.84, p < .01$)。これより、シナリオの操作の妥当性を認めて分析を進めた。

コミットメントと嫉妬の相関

各変数間の相関を Table 3 に示した。恋愛シナリオでは、計算コミットメント、コミットメントと嫉妬の各変数との相関はなかった。友人シナリオにおいても同様に相関はみられなかった。

嫉妬と敵意の相関

恋愛シナリオにおいては、嫉妬と敵意の間には、弱い程度から中程度の正の相関がみられた。ただし、パートナーへの嫉妬は、パートナーへの遠まわしの敵意やライバルへの感情的敵意とは相関がなかった。また、ライバルへの嫉妬は、パートナーへの嫌味と相関はなく、いずれへの嫉妬もパートナーへの遠まわしの敵意と相関がなかった。友人シナリオでは、ライバルへの積極的嫉妬とパートナーへの遠まわしの敵意を除き、嫉妬と敵意の間には、弱い程度から中程度の正の相関がみられた。

自己愛と嫉妬、敵意の相関

恋愛シナリオでは、自己愛の過敏性は、パートナー、ライバルに対する嫉妬と弱い正の相関があった。敵意については、ライバルへの感情的攻撃と弱い正の相関があった。誇大性も嫉妬と弱い

Table 3 変数間の積率相関係数

| | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | |
|----|------------|--------|--------|--------|---------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 1 | 計算コミットメント | .75*** | .79*** | .62*** | -.71*** | .02 | .10 | .16 | .15 | .02 | .02 | -.15 | -.09 | .25* | .12 | -.01 | -.18† | -.15 | -.01 | |
| | | .74*** | .72*** | .81*** | -.71*** | .03 | .01 | .12 | .02 | -.06 | -.09 | -.06 | -.01 | -.07 | -.03 | -.01 | -.10 | -.10 | -.03 | |
| 2 | コミットメント | | .57*** | .54*** | -.50*** | .06 | .19† | .18† | .16 | .08 | -.03 | -.10 | -.14 | .19† | .04 | .01 | -.14 | -.04 | .09 | |
| | | | .58*** | .55*** | -.55*** | -.05 | .01 | .05 | .05 | .09 | .10 | .04 | .03 | .02 | .16 | .14 | .04 | .15 | -.05 | |
| 3 | IMS 満足度 | | | .26** | -.38*** | -.02 | .05 | .04 | .06 | .09 | .10 | -.08 | -.03 | .18† | .11 | -.02 | -.02 | -.19† | -.05 | |
| | | | | .48*** | -.20* | -.09 | -.05 | .03 | -.03 | -.02 | -.04 | -.05 | -.06 | -.01 | .01 | .01 | -.12 | -.00 | .02 | |
| 4 | 投資量 | | | | -.14 | .13 | .21* | .02 | -.04 | .06 | -.03 | -.02 | -.20* | .12 | .01 | .00 | -.25* | -.13 | -.01 | |
| | | | | | -.35*** | .20* | .17 | .27** | .17† | -.02 | -.01 | .06 | -.04 | .01 | .05 | .08 | -.04 | .20* | .01 | |
| 5 | 代替 | | | | | .07 | .01 | -.27** | -.31** | .12 | .04 | .23* | -.06 | -.23* | -.14 | -.02 | .13 | -.01 | -.05 | |
| | | | | | | .08 | .13 | .00 | .05 | .09 | .14 | .17† | -.03 | .13 | .08 | .10 | .08 | -.03 | .07 | |
| 6 | 嫉妬 積極的嫉妬 | | | | | | .76*** | .55*** | .39*** | .52*** | .37*** | .42*** | -.10 | .14 | .21* | .31** | -.02 | .21* | .21* | |
| | パートナー | | | | | | .80*** | .82*** | .70*** | .57*** | .45*** | .48*** | .21* | .49*** | .40*** | .49*** | .31** | .28** | .07 | |
| 7 | 受動的嫉妬 | | | | | | | .49*** | .52*** | .51*** | .32** | .35*** | -.12 | .11 | .21* | .25* | -.05 | .18† | .20† | |
| | | | | | | | | .77*** | .79*** | .61*** | .50*** | .55*** | .23* | .48*** | .47*** | .52*** | .37*** | .28** | .03 | |
| 8 | 嫉妬 積極的嫉妬 | | | | | | | | .78*** | .40*** | .26* | .16 | -.03 | .48*** | .38*** | .34** | -.15 | .34** | .22* | |
| | ライバル | | | | | | | | .85*** | .63*** | .48*** | .47*** | .11 | .67*** | .55*** | .56*** | .25* | .31** | -.03 | |
| 9 | 受動的嫉妬 | | | | | | | | | .38*** | .32** | .14 | .01 | .39*** | .47*** | .36*** | -.09 | .26* | .25* | |
| | | | | | | | | | | .61*** | .51*** | .47*** | .20* | .67*** | .62*** | .58*** | .40*** | .18† | -.06 | |
| 10 | 敵意 敵意感情的攻撃 | | | | | | | | | | .59*** | .42*** | .02 | .41*** | .45*** | .34** | .04 | .15 | .10 | |
| | | | | | | | | | | | .81*** | .62*** | .28** | .82*** | .76*** | .64*** | .44*** | .17† | -.08 | |
| 11 | 敵意表情・口調 | | | | | | | | | | | .39*** | .17† | .37*** | .66*** | .41*** | .22* | .14 | -.01 | |
| | パートナー | | | | | | | | | | | .66*** | .37*** | .68*** | .82*** | .67*** | .51*** | .16 | -.12 | |
| 12 | 敵意嫌み | | | | | | | | | | | | .28** | .30** | .38*** | .58*** | .28** | .13 | .07 | |
| | | | | | | | | | | | | | .49*** | .52*** | .83*** | .53*** | .24* | -.12 | | |
| 13 | 敵意遠回し | | | | | | | | | | | | | .20* | .20* | .28** | .67*** | .20† | -.12 | |
| | 敵意 | | | | | | | | | | | | | .24* | .25* | .44*** | .62*** | .12 | .03 | |
| 14 | 敵意感情的攻撃 | | | | | | | | | | | | | | .69*** | .54*** | -.02 | .23* | -.05 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | .84*** | .65*** | .42*** | .13 | -.16 | |
| 15 | 敵意表情・口調 | | | | | | | | | | | | | | | .68*** | .14 | .09 | -.02 | |
| | ライバル | | | | | | | | | | | | | | | .70*** | .50*** | .10 | -.17† | |
| 16 | 敵意嫌み | | | | | | | | | | | | | | | | .28** | .16 | .02 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | .58*** | .18† | -.13 | |
| 17 | 敵意遠回し | | | | | | | | | | | | | | | | | .15 | -.22* | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | .24* | -.14 | |
| 18 | 自己愛 過敏性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | -.22* |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | -.22* |
| 19 | 誇大性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$.

$N = 97-101$

上段は恋愛シナリオ、下段(イタリック)は友人シナリオの相関係数

正の相関があり、ライバルへの遠まわしの敵意とは弱い負の相関があった。友人シナリオでは、自己愛の過敏性は、パートナー、ライバルに対する嫉妬と弱い正の相関があった。敵意については、パートナーへの嫌み、ライバルへの遠まわしの敵意と弱い正の相関があった。両シナリオにおいて、対象の相違による相関の違いはみられなかったが、過敏性と誇大性では、相関のある敵意の変数、および相関の方向性に違いがみられた。

対象、自己愛の嫉妬・敵意への効果の検討¹⁾

次に、自己愛と対象の選択について、嫉妬および敵意の各変数を従属変数として反復測定的一般線形モデルにより検討した。独立変数は、投資(高群/低群 参加者間要因)、対象(パートナー/ライバル 参加者内要因)の2要因で、自己愛の過敏性と誇大性の2変数を共変量とした。関係性(恋愛/友人)も独立変数とするべきではあつ

たが、結果の解釈の複雑さから、投資と対象の2要因を独立変数に、自己愛の2変数を共変量として、関係性は別々に分析した。従属変数は、嫉妬の2変数(積極的嫉妬、受動的嫉妬)と敵意の4変数(感情的攻撃、表情・口調、嫌み、遠回し)であった。

恋愛シナリオでは、投資群の主効果(Wilks' $\Lambda = .85$, $F(6, 91) = 2.71$, $p < .05$, $\eta_p^2 = .15$)が、積極的嫉妬($F(1,96) = 6.87$, $p < .05$)、感情的攻撃($F(1,96) = 12.29$, $p < .01$)、表情・口調($F(1,96) = 6.27$, $p < .05$)、嫌味($F(1,96) = 4.30$, $p < .05$)において有意で、いずれも、投資高群において値が高くなった(Table 4)。

過敏性の効果は(Wilks' $\Lambda = .77$, $F(6, 91) = 4.18$, $p < .01$, $\eta_p^2 = .23$)、積極的嫉妬($F(1,96) = 20.54$, $p < .001$)、受動的嫉妬($F(1,96) = 12.60$, $p < .001$)、感情的攻撃($F(1,96) = 9.49$, $p < .01$)と嫌み(F

Table 4 恋愛シナリオにおける投資群、対象、自己愛の嫉妬・敵意への効果

| | 高投資群 | | | | 低投資群 | | | |
|-----------|-----------------|-----------------|----------|------------|----------|-----------|----------|-----------|
| | パートナー | | ライバル | | パートナー | | ライバル | |
| | <i>M</i> | <i>SD</i> | <i>M</i> | <i>SD</i> | <i>M</i> | <i>SD</i> | <i>M</i> | <i>SD</i> |
| 積極的嫉妬 | 5.26 | 1.05 | 5.64 | 1.16 | 4.86 | 1.32 | 5.38 | 1.27 |
| 受動的嫉妬 | 5.92 | .77 | 5.80 | 1.08 | 5.79 | .87 | 5.81 | .95 |
| 感情的攻撃 | 5.87 | 1.07 | 5.82 | 1.34 | 5.49 | 1.02 | 4.97 | 1.57 |
| 表情・口調 | 6.11 | .97 | 5.86 | 1.27 | 5.56 | 1.42 | 5.31 | 1.56 |
| 嫌み | 5.27 | 1.66 | 5.16 | 1.88 | 4.64 | 1.80 | 4.66 | 2.16 |
| 遠回し | 3.62 | 1.98 | 3.52 | 2.08 | 3.64 | 1.82 | 3.70 | 2.02 |
| 多変量効果 | Wilks' <i>A</i> | <i>F</i> (6,91) | <i>p</i> | 偏 η^2 | | | | |
| 投資群 | .85 | 2.71 | .018 * | .15 | | | | |
| 対象 | .94 | 1.01 | .425 | .06 | | | | |
| 投資群×対象 | .93 | 1.10 | .367 | .07 | | | | |
| 自己愛過敏性 | .77 | 4.48 | .001 ** | .23 | | | | |
| 自己愛誇大性 | .84 | 2.93 | .012 * | .16 | | | | |
| 対象×自己愛過敏性 | .95 | .80 | .575 | .05 | | | | |
| 対象×自己愛誇大性 | .92 | 1.28 | .275 | .08 | | | | |

| | 投資群 | | | 対象 | | | 投資群×対象 | | | 自己愛過敏性 | | | 自己愛誇大性 | | | 対象×過敏性 | | | 対象×誇大性 | | | |
|-------|-----------------|----------|------------|-----------------|----------|------------|-----------------|----------|------------|-----------------|-----------|------------|-----------------|----------|------------|-----------------|----------|------------|-----------------|----------|------------|-----|
| | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | <i>F</i> (1,96) | <i>p</i> | 偏 η^2 | |
| 積極的嫉妬 | 6.87 * | .07 | 高>低 | .05 | .00 | バ>ラ | .14 | .00 | 20.54 *** | .18 | 12.34 *** | .11 | 1.71 | .02 | .07 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |
| 受動的嫉妬 | 1.31 | .01 | | 2.75 | .03 | | .29 | .00 | 12.60 *** | .12 | 12.43 *** | .11 | 1.60 | .02 | 1.42 | .01 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |
| 感情的攻撃 | 12.29 ** | .11 | 高>低 | .73 | .01 | | 3.11 | .03 | 9.49 ** | .09 | .16 | .00 | 1.87 | .02 | .86 | .01 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |
| 表情・口調 | 6.27 * | .06 | 高>低 | .17 | .00 | バ>ラ | .01 | .00 | 2.63 | .03 | .01 | .00 | .12 | .00 | .13 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |
| 嫌み | 4.30 * | .04 | 高>低 | .02 | .00 | | .10 | .00 | 4.35 * | .04 | 1.18 | .01 | .14 | .00 | .11 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |
| 遠回し | .01 | .00 | | 1.59 | .02 | | .45 | .00 | 2.36 | .02 | 1.75 | .02 | .51 | .01 | 2.00 | .02 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 | .00 |

| | 自己愛過敏性 | | | | 自己愛誇大性 | | | |
|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | パートナー | | ライバル | | パートナー | | ライバル | |
| | <i>B</i> | <i>p</i> | <i>B</i> | <i>p</i> | <i>B</i> | <i>p</i> | <i>B</i> | <i>p</i> |
| 積極的嫉妬 | .28 ** | | .40 *** | | .24 ** | | .27 ** | |
| 受動的嫉妬 | .16 * | | .25 *** | | .16 * | | .24 ** | |
| 感情的攻撃 | .17 * | | .32 ** | | .08 | | -.02 | |
| 表情・口調 | .17 † | | .14 | | -.01 | | .02 | |
| 嫌み | .25 † | | .30 † | | .16 | | .12 | |
| 遠回し | .26 † | | .17 | | -.09 | | -.27 † | |

****p*<.001. ***p*<.01. **p*<.05. †*p*<.10.

(1,96) = 4.35, *p*<.05) にみられたが、表情・口調と遠まわしにはみられなかった。この過敏性の効果は、パートナーとライバルどちらにも正の方向で、すなわち、過敏性が高いと、パートナーにもライバルにも嫉妬が強くなり、また感情的攻撃が高くなった。

一方、誇大性の効果は (Wilks'*A* = .84, *F* (6, 91) = 2.93, *p*<.05, $\eta_p^2 = .16$)、積極的嫉妬 (*F* (1,96) = 12.34, *p*<.001)、受動的嫉妬 (*F* (1,96) = 12.43, *p*<.001) にみられたが、感情的攻撃と嫌み、表情・口調、遠まわしにはみられなかった。誇大性の効果は、パートナーとライバルどちらにも正の方向であった。すなわち、誇大性が高いと嫉妬が強くなるが、敵意とは関わらなかった。

友人シナリオに関しては、投資群と対象の交互作用 (Wilks'*A* = .87, *F* (6, 91) = 2.26, *p*<.05, $\eta_p^2 = .13$) と、過敏性の主効果 (Wilks'*A* = .86, *F* (6, 91)

= 2.52, *p*<.01, $\eta_p^2 = .14$) がみられた。また、対象と過敏性の交互作用の効果の傾向 (Wilks'*A* = .89, *F* (6, 91) = 1.96, *p*<.10, $\eta_p^2 = .11$) がみられた。投資群、対象、誇大性、対象と誇大性の効果はなかった (Table 5)。

投資群と対象の交互作用の効果は、感情的攻撃 (*F* (1,96) = 3.66, *p*<.10) において効果の傾向がみられたが、その他にはなかった。単純主効果の検定 (Bonferroni法) より、投資群の差ではなく、対象による差がみられた。すなわち、消極的嫉妬は、両投資群ともにライバルよりもパートナーの値が高くなった (投資高群 *p*<.05; 投資低群 *p*<.001)。敵意の感情的攻撃は、投資低群においてのみ、パートナーの方が高くなった (*p*<.001)。また、表情・口調は、両群でパートナーにおいて高く (投資高群 *p*<.001; 投資低群 *p*<.05)、遠回しも、両投資群で、パートナーの値が高くなった

Table 5 友人シナリオにおける投資群、対象、自己愛の嫉妬・敵意への効果

| | 高投資群 | | | | 低投資群 | | | | | | | | | |
|-----------|-------------------|----------|-------------------|------------|-------------------|------------|-------------------|------|------------|-----|------|-----|-------------------|-----|
| | パートナー | | ライバル | | パートナー | | ライバル | | | | | | | |
| | M | SD | M | SD | M | SD | M | SD | | | | | | |
| 積極的嫉妬 | 3.32 | 1.25 | 3.48 | 1.58 | 3.54 | 1.45 | 3.48 | 1.64 | | | | | | |
| 受動的嫉妬 | 4.52 | 1.45 | 4.17 | 1.61 | 4.64 | 1.40 | 4.10 | 1.71 | | | | | | |
| 感情的攻撃 | 3.58 | 1.51 | 3.34 | 1.72 | 3.66 | 1.69 | 3.00 | 1.78 | | | | | | |
| 表情・口調 | 4.50 | 1.80 | 3.99 | 1.89 | 3.78 | 1.97 | 3.43 | 2.06 | | | | | | |
| 嫌み | 3.57 | 1.91 | 3.74 | 1.88 | 3.47 | 2.13 | 3.38 | 2.11 | | | | | | |
| 遠回し | 4.88 | 1.93 | 4.15 | 1.94 | 4.51 | 1.84 | 3.70 | 1.89 | | | | | | |
| 多変量効果 | Wilks' Λ | F (6,91) | p | 偏 η^2 | | | | | | | | | | |
| 投資群 | .91 | 1.43 | .211 | .09 | | | | | | | | | | |
| 対象 | .97 | .51 | .802 | .03 | | | | | | | | | | |
| 投資群×対象 | .87 | 2.26 | .044* | .13 | | | | | | | | | | |
| 自己愛過敏性 | .86 | 2.52 | .027* | .14 | | | | | | | | | | |
| 自己愛誇大性 | .94 | .99 | .434 | .06 | | | | | | | | | | |
| 対象×自己愛過敏性 | .89 | 1.96 | .080 [†] | .11 | | | | | | | | | | |
| 対象×自己愛誇大性 | .92 | 1.40 | .223 | .08 | | | | | | | | | | |
| | 投資群 | 対象 | 投資群×対象 | 自己愛過敏性 | 自己愛誇大性 | 対象×過敏性 | 対象×誇大性 | | | | | | | |
| | F (1,96) | p | 偏 η^2 | F (1,96) | p | 偏 η^2 | F (1,96) | p | 偏 η^2 | | | | | |
| 積極的嫉妬 | .02 | .00 | .12 | .00 | 1.87 | .02 | 10.10** | .10 | .24 | .00 | 1.42 | .01 | 3.67 [†] | .04 |
| 受動的嫉妬 | .09 | .00 | .78 | .01 | .43 | .00 | 5.36* | .05 | .02 | .00 | 1.31 | .01 | 3.43 [†] | .03 |
| 感情的攻撃 | .33 | .00 | .03 | .00 | 3.66 [†] | .04 | 1.87 | .02 | 1.90 | .02 | .18 | .00 | 2.08 | .02 |
| 表情・口調 | 3.58 [†] | .04 | .55 | .01 | .81 | .01 | 1.85 | .02 | 2.24 | .02 | 1.39 | .01 | 1.55 | .02 |
| 嫌み | .81 | .01 | .33 | .00 | .96 | .01 | 4.39* | .04 | .63 | .01 | .66 | .01 | .01 | .00 |
| 遠回し | 2.40 | .02 | .78 | .01 | .12 | .00 | 4.69* | .05 | .07 | .00 | 1.33 | .01 | 2.59 | .03 |
| | 自己愛過敏性 | 自己愛誇大性 | | | | | | | | | | | | |
| | パートナー | ライバル | パートナー | ライバル | パートナー | ライバル | パートナー | ライバル | | | | | | |
| | B | p | B | p | B | p | B | p | | | | | | |
| 積極的嫉妬 | .30** | | .38** | | .11 | | -.01** | | | | | | | |
| 受動的嫉妬 | .30** | | .21 | ns | .06 | | -.09** | | | | | | | |
| 感情的攻撃 | .19 | | .15 | | -.11 | | -.22 | | | | | | | |
| 表情・口調 | .25 [†] | | .14 | | -.15 | | -.26 | | | | | | | |
| 嫌み | .35* | | .27 [†] | | -.12 | | -.11 | | | | | | | |
| 遠回し | .21 | | .36* | | .07 | | -.14 [†] | | | | | | | |

*** $p < .001$. ** $p < .01$. * $p < .05$. [†] $p < .10$.

(投資高群 $p < .01$; 低投資群 $p < .001$)。

過敏性の効果は、積極的嫉妬 ($F(1,96) = 10.10$, $p < .01$)、受動的嫉妬 ($F(1,96) = 5.36$, $p < .05$)、嫌み ($F(1,96) = 4.39$, $p < .05$)、遠回し ($F(1,96) = 4.69$, $p < .05$) は有意であったが、感情的攻撃と表情・口調にはなかった。この過敏性の効果は、積極的嫉妬 (パートナー $\beta = .30$, $p < .01$; ライバル $\beta = .38$, $p < .01$)、受動的嫉妬 (パートナー $\beta = .30$, $p < .01$; ライバル $\beta = .21$, ns)、嫌み (パートナー $\beta = .35$, $p < .05$; ライバル $\beta = .27$, $p < .10$)、遠回し (パートナー $\beta = .21$, ns; ライバル $\beta = .36$, $p < .05$) ですべて正の方向であった。すなわち、過敏性が高いと、嫉妬と、敵意の嫌み、遠回しが強くなるが、敵意の感情的攻撃、表情・口調には関わらなかった。

対象と過敏性の交互作用効果は、パートナーに対する表情・口調にみられたのみで、その他の変

数に効果はなかった。受動的嫉妬、嫌みの影響はパートナーについてのみで、遠回しはライバルについてのみ有意差がみられた。これは、対象により対処方略が異なっているものと考えられる。

4-3. 考察

シナリオによる操作の妥当性

投資量確認項目は、恋愛シナリオで差があり、友人シナリオでは差がなかった。しかしながら計算コミットメント、コミットメントには両投資群の差がみられたことから、関係投資によるコミットメントの相違認識はある程度は操作できたと考えられる。嫉妬の下位因子得点の平均値は恋愛シナリオと友人シナリオを合わせて16変数のうち15変数が中間値以上で、敵意も32変数のうち26変数において中間値以上であったことから、嫉妬、敵意もシナリオにより喚起されたと考えられ

る。以下に、仮説の検討結果を順にまとめる。

コミットメントと嫉妬の関連性 (仮説1)

コミットメントと嫉妬の正の相関は明確ではなく、嫉妬と関係の継続性の予測 (Guerrero et al., 1995) とは異なった。関係の経済性に基づくコミットメントの概念と、情動的な嫉妬の概念が噛み合わなかった可能性がある。そのため、仮説1は支持されなかった。

嫉妬と敵意の関連性 (仮説2-1)

嫉妬と敵意の相関は32変数のうち、恋愛シナリオでは20変数に正の相関がみられ、友人シナリオでは、31変数で正の相関がみられた。これより、嫉妬と敵意には正の相関が示された。しかし、恋愛シナリオでは敵意の遠回しにおいては相関がなかった。そのため、仮説2-1は部分的に支持された。

敵意の対象 (仮説2-2)

分析結果から、対象の主効果は恋愛、及び、友人シナリオにおいてみられず、友人シナリオで投資群と対象の交互作用の傾向があったものの、変数別には感情的攻撃への効果傾向にとどまった。これより、仮説は支持されず、パートナーと、親しい友人でもあるライバルへの敵意は同程度であったと考えられる (Guerrero & Andersen, 1998b 一言訳 2008)。

友人シナリオにおける投資群と対象の交互作用の傾向は、投資群による相違ではなく、対象による相違であった。消極的嫉妬 (両投資群)、敵意の表情・口調、遠回し (両投資群)、感情的攻撃 (投資低群) は、すべてライバルよりもパートナーに嫉妬、敵意が向けられた。身近なパートナーに嫉妬、敵意が向かいやすかった可能性がある。また、三者全員が顔見知りで、パートナーとライバルがさらに仲良くなる可能性を阻止するための敵意であったとも考えられる。

自己愛過敏性と嫉妬 (仮説3-1) および自己愛過敏性と敵意 (仮説3-2) の関連性

どの群も、自己愛の誇大性よりも過敏性の方が嫉妬・敵意への影響が大きく、特に過敏性は嫉妬に強く影響した。恋愛シナリオにおいて、過敏性は積極的・受動的嫉妬、敵意の感情的攻撃、嫌みに影響があった。恋愛シナリオに比べて友人シナリオでは、過敏性の影響は低かったものの、積極的・受動的嫉妬と敵意の嫌味、遠まわしに正に影響

した。これより、仮説3-1および仮説3-2は部分的に支持されたと考えてよいであろう。

このような自己愛の過敏性と嫉妬の関連は、過敏性の“自己評価のために他者から賞賛を求める”傾向が嫉妬感情に影響するという神野 (2018) 等の研究を支持する結果となった。誇大性は、自己評価が自分自身の中で確立しており、“自分に非はなく、裏切った相手が悪い”という認識から嫉妬感情が生じにくいとも考えられるが、過敏性は“パートナーが自分の評価を下げた”という認識から、自分が価値づけてきたパートナーとの関係維持のために嫉妬感情につながる可能性もある。

過敏性と敵意の関連をみると、過敏性は恋愛と友人の両シナリオで嫌みに影響し、恋愛関係では感情的攻撃に、友人関係では、遠まわしに影響していた。恋愛と友人では関係の質が異なり、恋愛関係の方が強い情動経験を有し (水野, 2002)、感情的にぶつかりながら、自分自身の気持ちを相手に伝えようとするために、パートナーへの感情的な敵意表現につながった可能性がある。

自己愛過敏性と敵意の対象 (仮説4-1、仮説4-2)

恋愛シナリオにおいて、過敏性は敵意の対象選択に関連せず、友人シナリオでは、対象と過敏性の交互作用の効果の傾向のみみられた。さらに検討すると、過敏性が高いと、パートナーに対しては受動的嫉妬および敵意・嫌みも高くなったが、ライバルに対しては、敵意・遠回しが高くなった。すなわち、過敏性が高いと、友人関係でも親友 (パートナー) を理想化し (小此木, 1981)、友人がその理想と異なる行為をとったことで敵意が生じたとも考えられるが、明確な結果は得られなかった。これより仮説4-1、仮説4-2は支持されなかった。

5. 本研究の限界と今後の展望

本研究では、嫉妬を三者関係の状況において、また、狭義の概念として「すでに所有しており、価値づけている対人関係が失われる危険を感じたときに生じる感情」として定義を明確化し、シナリオ法により実証的に検討した点において意義があると考えられる。しかし、シナリオ法の採択が本研究の限界でもあった。侵襲性を低くするために間接的なシナリオ法を用い、さらに、“シナリ

オの主人公の認識はどれくらい妥当か”と尋ねた。これより、間接性はさらに高まり、現実場面との乖離が大きくなった可能性も高い。シナリオの主人公の嫉妬や敵意がどれだけ妥当かを問いながら、研究協力者本人の自己愛を尋ねたことから、自己愛の傾向を個人特性とした嫉妬時の敵意についての検討が成立しなかった可能性もある。

また、シナリオは裏切り場面の目撃にとどまり、パートナーが自分の元を去ることまで設定しなかった。友人シナリオにおいては、「卒業後も会おう」としたが、卒業時点で一度、友人関係が終了することもある。これより、嫉妬による敵意が生じにくかったとも考えられる。

参加者数については、群分けにより各シナリオの回答が約50名となった。十分とはいえず、さらに数を増やした検討も必要である。

分析では、恋愛関係と友人関係の比較に至らなかった。条件設定等も見直して分析をさらに試みる必要がある。加えて、関係性の質的な相違についてもさらに検討が必要である。以上より、今後の展望として、シナリオおよび質問の工夫、十分な研究協力者数の確保、恋愛と友人の関係性の量的および質的な比較が必要と考えられる。

最後に、自己愛と敵意の対象選択の関連性については、さらに検討が必要である。自己愛の過敏性と嫉妬および敵意との関連は友人関係において示唆されたが、対象の選択は明確ではなかった。敵意は多次元からなり、その表現や主張性、相手への期待等でも異なることが予測される。特に対処行動としての敵意についてさらに検討し、人間関係の中で本人にとっても相手にとっても適切かつ納得できる対処行動をみつけられれば、人との関係性を深く捉えなおすきっかけにもなると考えている。

謝 辞

本論文の作成にあたり研究にご協力いただいた参加者の皆様に心より感謝を申し上げます。昭和女子大学生生活機構研究科心理学専攻2021年度修了生の根岸咲綺さんと同課程在学中の楠本沙織さんにはシナリオの検討にご協力いただきましたことを御礼申し上げます。数多くの助言をいただいた査読者に感謝を申し上げます。本論文は第一著

者の2022年度修士論文をまとめなおしたものです。

注

- 1) 査読者から分析について助言をいただき再検討したが、対象(参加者内)と自己愛(共変量)の交互作用の検討は本研究の主要な仮説のひとつであるため反復測定GLM分析の結果を記載した。

引用文献

- 相澤寛史 (2003). 同性友人関係における投資モデルの精緻化 実験社会心理学研究, 42, 131-145.
- 安藤明人・曾我祥子・山崎勝之・島井哲志・嶋田洋徳・宇津木成介・大芦 治・坂井明子 (1999). 日本版Buss-Perry攻撃性質問紙(BAQ)の作成と妥当性, 信頼性の検討 日本心理学研究, 70, 384-392.
- Bers, S. A., & Robin, J. (1984). Social-comparison jealousy: A developmental and motivational study. *Journal of Personality and Social Psychology*, 47, 766-799.
- Buss, A. H., & Perry M. (1992). The aggression questionnaire. *Journal of Personality and Social Psychology*, 63, 452-459.
- Buss, D. M. (2000). *The dangerous passion: Why jealousy is as necessary as love and sex*. Free Press.
- Daly, M., & Wilson, M. (1983). *Sex, evolution, and behavior*. Willard Grant Press.
- Feldman, S. S., & Cauffman, E. (1999). Sexual betrayal among late adolescents: Perspectives of the perpetrator and the aggrieved. *Journal of Youth and Adolescence*, 28, 235-258.
- Festinger, L. (1954). A theory of social comparison processes. *Human relations*, 7, 117-140.
- Fromm, E. (1956). *The art of loving*. Harper & Brothers. (懸田克躬 (訳) (1959) 愛すること 言うこと 紀伊国屋書店)
- Gilbert, P., Price, J., & Allan, S. (1995). Social comparison, social attractiveness and evolution: How might they be related? *New Ideas in Psy-*

- chology*, 13, 149-165.
- Guerrero, L. K., Andersen, P. A., Jorgensen, P. F., Spitzberg, B. H., & Eloy, S. V. (1995). Coping with the green-eyes monster: Conceptualizing and measuring communicative responses to romantic jealousy. *Western Journal of Communication*, 59, 270-304.
- Guerrero, L. K., & Andersen, P. A., (1998a). Jealousy experience and expression in romantic relationships. In Andersen, P. A., & Guerrero, L. K. (Eds.), *The Handbook of Communication and Emotion*. Academic Press, pp.155-188.
- Guerrero, L. K., & Andersen, P. A. (1998b). The Dark Side of Jealousy & Envy: Desire, Delusion, Desperation, and Destructive Communication. In Spitzberg, B. H. & Cupach, W. R. (Eds.), *The Dark Side of Close Relationships*. Taylor & Francis Group LLC. (一言英文 (2008). 嫉妬と妬みのダークサイド：欲望, 妄想, 絶望と破壊的コミュニケーション スピッツバーグ, B. H. & キューバック, W. R. 谷口弘一・加藤司 (監訳) 親密な関係のダークサイド (pp. 35-67) 北大路書房)
- Guerrero, L. K., Hannawa, A. F., & Babin, E. A. (2011). The Communicative Responses to Jealousy Scale: Revision, Empirical Validation, and associations with relational satisfaction. *Communication Methods and Measures*, 5, 223-249.
- 神野 雄 (2015). 嫉妬研究の概観と展望 神戸大学発達・臨床心理学研究, 14, 18-28.
- 神野 雄 (2017). 架空の浮気場面への予測行動尺度の信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 26, 140-153.
- 神野 雄 (2018). 青年の恋愛関係における嫉妬傾向は自尊感情に規定されうるか——自己愛的観点からの検討—— パーソナリティ研究, 27, 125-139.
- 木野和代 (2000). 日本時の怒りの表出方法とその对人的影響 日本心理学研究, 70, 494-502.
- 岸田 秀 (1987). 嫉妬の時代 飛鳥新社.
- 古村健太郎 (2017). 恋愛関係における接近・回避コミットメントと投資モデルの関連 パーソナリティ研究, 25, 240-243.
- 水野邦夫 (2002). 恋愛・友人関係観の性差に関する研究 聖泉論叢, 10, 81-92.
- 中山留美子・中谷素之 (2006). 青年期における自己愛の構造と発達的变化の検討 教育心理学研究, 54, 188-198.
- 中里浩明 (1992). 嫉妬と羨望の意味構造——嫉妬と羨望の心理学 (2)—— 神戸女学院大学論文集, 38, 129-134.
- 小此木啓吾 (1981). 自己愛人間 ちくま学芸文庫.
- 大久保暢俊 (2009). 社会的比較による自己評価と対人関係 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 10, 111-121.
- 小塩真司 (2004). 健全な自己愛と不健全な自己愛 千葉商大紀要, 42, 1-20.
- Parker, R. G. (1994). An examination of the influence of situational determinants upon strategies for coping with romantic jealousy. Paper presented at the annual meeting of the Speech Communication Association, New Orleans, LA.
- Parrot, W. G. (1991). The emotional experiences of envy and jealousy. In P. Salovey (Ed.), *The psychology of jealousy and envy* (pp.3-30). Guilford.
- Paul, L., Foss, M. G., & Galloway, J. (1993). Sexual jealousy in young women and men: Aggressive responsiveness to partner and rival. *Aggressive Behavior*, 19, 401-420.
- Rusbult, C. E. (1980). Commitment and satisfaction in romantic associations. *Journal of Experimental Social Psychology*, 16, 172-186.
- Rusbult, C. E. (1983). A longitudinal test of investment model. *Journal of Personality and Social Psychology*, 45, 101-117.
- Rusbult, C. E. (1987). Responses to dissatisfaction in close relationships: The exit-voice-loyalty-neglect model. In D. Perlman, & S. Duck (Eds.), *Intimate relationships: Development, dynamics, and deterioration* (pp.209-237). Sage.
- Rusbult, C. E., Martz, J. M., & Agnew, C. R. (1998). The investment model scale: Measuring commitment level, satisfaction level, quality of alternatives and investment size. *Personal Relationship*, 5, 1567-1577.
- 相良陽一郎・相良麻里 (2006). 自己愛と攻撃性

- の関係について 千葉商大紀要, 43, 37-59.
- Salovey, P. & Rothman, J. (1991). Envy and jealousy: Self and society. In Salovey, P. (Ed.). *The psychology of jealousy and envy*. pp.271-286. Guilford Press.
- 谷 冬彦 (2006). 自己愛人格尺度 (NPS) 短縮版の作成 日本教育心理学会第48回総会発表論文集, PE (032).
- 堤 雅雄 (2006). 嫉妬と自己愛: 自己愛欲求が嫉妬感情を喚起させるのか 島根大学教育学部紀要, 37, 39-43.
- 和田 実 (2015). 恋愛関係嫉妬時の情動とコミュニケーション反応: 嫉妬の強さおよび性との関連 応用心理学研究, 40, 213-223.
- White, G. L. (1981). A model of romantic jealousy. *Motivation and Emotion*, 5, 295-310.
-

こやま あいみ (生活心理研究所特別研究員)
ほんだ はわーどもとこ (昭和女子大学生生活機構研究科心理学専攻)